

## はじめに

「求人を出しても応募が来ない…」

「やっと来てくれたと思ったら、すぐ辞めてしまった…」

そんな悩みを、誰にも言えずに一人で抱えていますか？

この本は、いわゆる「ひとり人事」——つまり、人事の専門家ではないのに、人事のすべてを任されている人のための実践書です。総務や経理と兼任で採用を担当している人もいれば、ある日、社長から「ちょっと採用頼むよ」と急に丸投げされた人もいます。求人票の書き方から面接、そして入社後のフォローまで。右も左もわからないまま、それでも会社のため走り続けている。それが、全国の「ひとり人事」の皆さんです。実は、私自身もかつて人事担当として同じ立場にいました。だから、その苦しみが痛いほどわかります。

人事担当に転職する前はリクルートという会社で中小企業の採用支援をしていたのですが、地元の建設業や製造業、介護業など——、いわゆる「人が集まりにくい業界」の企業様をサポート

トしていました。どの会社も本当に真面目で、社員思いで、地域に根ざした素敵な会社ばかり。でも、求人を出しても応募が来ない。来ても続かない。そんな現場をたくさん見てきました。私にとって忘れられないのは、ある土木工事会社での出来事です。その会社は、道路を舗装したり、橋をつくったりと、地域のインフラを支えていました。仕事の合間、夕方の更衣室で、社員さんたちが作業服のまま丸テーブルを囲んで雑談をしていました。「この前の現場、暑かったなあ」とか「週末、子どもの運動会でさあ」とか——、たわいもない話を笑いながらしている光景。それを見た瞬間に思いました。「ああ、これがこの会社の魅力だな」と。だから、求人票に「仕事内容」ではなく「この時間」を切り取って書いたのです。求人用のSNSにも「現場の仲間たちの何気ない日常」を載せました。すると、それを見た若者が「この会社、いいな」と応募してくれたのです。特別なキャッチコピーを書いたわけでも、大きな予算をかけたわけでもなく、「日常の魅力」を伝えただけで、採用が動いた瞬間でした。

この経験から、私は痛感しました。中小企業の採用は、特別な才能やノウハウではなく、日常の見せ方で変わる。求職者が知りたいのは、立派な経営理念よりも「どんな人が働いているのか」「どんな空気の会社なのか」ということ。野菜のラベルに「生産者の顔」があると手に取りたくなるように、人も「働く人の顔」に惹かれるのです。

そしてもうひとつ。採用がうまくいっても、「定着しない」と意味がありません。私はそのことを、リクルートから転職後に勤務した中小企業で身をもって感じました。人事担当として採用・教育・評価まで関わるなかで、いくら制度を整えても、社員が「会社に居続けたい」と思わなければ長続きしない。「仕組み」よりも「信頼関係」、これが定着の本質なのだ気づかされました。

人事や採用に関して外部コンサルタントのアドバイスを受けても、現場が回らない。「いや、それができたら苦労しないですよ」と言いたくなるような場面もたくさんありました。だから私は今、単なる「アドバイザー」ではなく、実際に企業のなかに入り込み、ひとり人事の一員として伴走するスタイルで活動しています。求人票づくりも、面接も、評価面談も、経営者との壁打ちも、全部「一緒にやる」。このように「共に走る」ことが、採用も定着も変える最大の鍵だと思っています。

さて、ここからが本題です。この本は、「うちの会社でもできそう」と思ってもらうために書きました。難しい理論書ではありません。実際に現場で使える手順やテンプレート、リアルな事例をもとに、今日から動ける採用・定着の手引きとして構成しています。しかも、採用活動の「前段階」である「認知のつくり方」——、つまり、「どうすればそもそも会社を見てもらえるのか」という視点からスタートしています。多くの採用本は（求職者に自社の）「求人を見

つけてもらっていること」を前提に書かれています。本書はその一歩手前に立ち戻り、「どう見つけてもらうか」から解説しているのが特徴です。

また、「採用して終わり」ではなく、「定着して、戦力になる」までに照準を合わせています。評価制度、教育、上司の関わり方——。昔のように「見て覚える」ではなく、今の時代は、どう寄り添うか、どう支えるか、が問われています。私が社会人になった頃、上司に喫煙所で説教されることは日常茶飯事でした。でも今、そんな光景がSNSにでも投稿されれば炎上しかねない（笑）。

時代は変わりました。だからこそ、今の若手やZ世代に合わせた、関係性のつくり方、が求められています。この本の目指すところは、「採用から定着までのすべてを、一人でやらなきゃいけない」人の負担を軽くすることです。

「なるほど、これならできそう」「うちの会社でも試してみたい」——、そう思ってもらえるように、できるだけ手順を具体的に、言葉はやさしく。普段、私がセミナーで話すようなトーンで書きました。

採用活動は、会社の未来を描くことです。

求人票の一行が、誰かの人生を動かします。

そんな瞬間を、あなたにも体感してほしい。

たった一人で奮闘している、ひとり人事のあなたへ。

この本が、御社の採用活動を、あなたの隣で支える存在になれば嬉しく思います。

一緒に、あなたの会社の未来をつくる採用をはじめましょう。